

2018~2019 年度

大船渡西ロータリークラブ会報



RI 会長テーマ

七福人



＝会長指針＝

初心を忘れず、寛容の心で
よりよい奉仕を進めよう

会 長 浜田 浩誠
副会長 木下 彰則
幹 事 菅野 嘉洋

．．． 例 会 記 録 ．．．

5月第4週例会 2019年 5月23日(木)

ソング : 奉仕の理想 ボックス : 27,000円 (報告者 大西 竜介会員)
本日出席率 : 52.94% 前回修正後64.71% (メンバー3名) (報告者 古内 一二会員)

★ 会長の時間 浜田浩誠会長



弊社社長の葬儀にあたり、皆様からの沢山の心温まるご配慮をいただき、誠にありがとうございました。

おかげさまで、無事葬儀を終えることができました。心より御礼申し上げます。

また、3月に続き2週連続の欠席、皆様にご迷惑をお掛けしてしまい、申し訳ございません。

本日からまた精一杯勤めてまいりますので、よろしくお願い致します。

さて、今日の会長の時間ですが

連休明けの7日、この日は、連休ボケでダラダラしない様、うちの従業員が何となく事故でも起こしそうな気分でしたので、カツを入れようと早めに朝食をとり、一服もせずに着替えを済ませ、朝礼ではあれとこれと話す事を考えていると、7時少し前ドーンというものすごい音がしました。

このとき、んっ！従業員じゃなく社長か？と思い自宅ベランダに出てみるとその通り社長の車が国道に斜めに止まっているのが見えました。

急いで現場まで走っていくと社長は、何故か外に倒れている状態でした。

通常なら車内にいるはずですが初めは、気にしていませんでした。

奥さんから話を聞くと、シートベルトに腕が引っかかってあお向けで倒れていたとの事、私が見た時は、うつぶせの状態でした。

多分、シートベルトが外れた為、クリープ現象で車が勝手に動いて社長を押してうつぶせになったのでしょうか。

未だ、警察からの回答はありません。現在は、着衣が科捜研に送られ、その結果待ちになっております。

報道や、ネットでは、色々言われておりますがほぼ間違いないのは、社内には居なかったと思われま

す。報道でも皆さん見ていると思いますが私は、即日防犯カメラの画像を8倍に拡大しコマ送りで見ましたが残念ながらハッキリは見えません。

想像でしか言えませんがいつもの様に車に乗りシートベルトをし、エンジンをかけ、Dドライブに入れ、発進しようと思ったところ、いつもしている腕時計をするのを忘れた事に気付き、取りに戻ろうと思い、シートベルトを外し、ドアを開け右足を外に出し体を外に出したところギアがDレンジのままの為、スルスルと車が走り出し慌てて残っていた左足でブレーキを踏もうとしたところ、誤ってアクセルを踏んでしまった為、ものすごい勢いで道路に出てしまったと思われま

す。もし、ギアをパーキングにしていたら、ハンドブレーキを引いていたら、社内に居たら、こんなことを言うとの祭りと言われてしまいますが、特に車は、凶器と一緒に

一つ一つの注意、使い方を誤ると自分だけでなく周りの人にまで迷惑をかけてしまいます。
歳は、関係ありません。
運転は、勿論ですが、何事も慎重に気を引き締めて行きましょう。
以上会長の時間でした。

◆◆◆ 幹事報告 ◆◆◆

1 北上西ロータリークラブより

2019-2020 年度インターアクト年次大会の事前案内が届いています。

日 時 8月9日(金) 12時30分登録受付～10日(土) 13時解散

会 場 岩手県南青少年の家

テーマ 「Akution」～新時代へ踏み出す一歩～

主 管 ホスト校 専修大学北上高等学校 ホスト RC 北上西 RC

参加予定人数を6月5日までに報告

2 日本事務局より 2019年度規定審議会の決定報告書が送信されました次年度からの運営にかかわる案内
ですので送付を受けた方はご確認ください。

3 大船渡 ILC 推進協議会より

総会議事録と第一回加速器関連産業参入セミナー・ILC 技術セミナー開催案内が届いています。

日 時 6月6日(木) 午後2時30分～5時30分 会 場 アートホテル盛岡

締切り 5月29日 セミナー後に開催される交流会に参加の場合 会費 4,500円

4 南原中央 RC より「架け橋の翼」派遣生名簿等が届いています。

当クラブ受入期間 7/31～8/6 6泊7日

◆◆◆ 本日のプログラム ◆◆◆

グループミーティング報告

テーマ：「震災から現在までを振り返って」

★ 第1班



日 時：5月22日(火) 18:30～ 会 場：ときしらず

出席者：(班長) 新沼福三 阿部英気 水野賢一 新沼達央 鈴木信男 門田崇
濱守豊秋

(発表者) 紀室綾子 以上8名

・震災時会員数は44名

震災後の顔合わせは40日後の4月21日 翁 で開かれた。

例会は5月19日開発鉄道の会議室であった。

国内外からの支援クラブは98クラブで感謝の念に耐えない。

・震災から一年、グループ補助金申請のために夜遅くまでグループ構成のメンバーと話し合いを重ねた。

・経験をして思うこと： まず、一番大事な事は自分の命を守ることだと思う。

私は自分の体力の限界を知らずただ支援活動に動くことだけだったが、その年の9月ついに倒れ病院に運ばれた。30分遅れていたら命なし・・・

支援活動： 何事も諦めてはだめだ。計画通り実現できるまで諦めてはダメなのである。

一生懸命やっていたら誰かが助けてくれる。西クラブも神様に助けて頂いた。

・震災時の大船渡市内の状況を見たとき、相当復旧には時間がかかると思った。と、同時に盛町の商店街を含め住宅など活用してもらえば復活するのに良いチャンスとも思った。

震災から一年、自分も含め皆それぞれ一生懸命再生に向けてがんばっていたと思う。

震災から三年、頑張りすぎて体調を崩す人も多く出てしまった。自分も寝れないくらいに心が弱っていたが仕事は忙しく大変だった。

震災から五年、盛町もたいして変化がなく、大方の再生の姿が見えてきたと思う。相変わらず忙しい日々を過ごしていた。

現在は落ち着いているように思う。

・地域的に特に猪川町は移転者も多く、震災前の世帯数が2倍になった。子供たちも増えとても賑やかである。しかし、その一方で交流不足で都会的な希薄さを感じる。

今後は不透明で違和感やら、不安感やらがつのってしまう。

・まとめ

震災から8年、改めて振り返ると、インフラの復旧、住宅・生活の再建、商店街の再建状況などは概ね終了しているようである。

しかし、街は賑わっているように見えるが、苦悩も見え隠れしているのが現実のようである。

また、震災から時がたつにつれて県外からのお客様や各種の支援は減ってきているようであり、さらには人口の減少や高齢化もいまだ深刻な状況のままである。まさにこれからが正念場。濱守氏がガバナーを務めた時の月信の中で、「貴重な災害体験をロータリーのDNAに刻む」という企画で1年間、2520地区の仲間と対談という形で震災を綴ったが、これをバイブルとして今後起こりうる問題や、災害に対し、過去の経験を活かしロータリーとしての活動を強化すべきと思う。その為にも会員同士の好意と友情をさらに深め、みんなの為になるようがんばろうではないか。と結束を固めた1班でした。

★ 第2班



日 時： 5月21日（火）18:30～ 会 場：養老の瀧 盛店

出席者：（班長・発表者）今野義也/熊谷雅也/山口康文/藤丸数子/鈴木秀樹/
佐々木幹子/三浦和士/船砥俊昭/ 以上8名

第2班ではミーティングテーマである「震災から現在を振り返って」を以下の3つにカテゴライズしながらディスカッション形式にて進行した。

1) ご自身の会社・仕事、または業界的な側面

2) RCの組織、活動についての側面

3) 市民生活、街づくり、地域的な側面

1) ご自身の会社・仕事、または業界的な側面について

○震災後は震災特需でなんとかやってきたが、現在は補助金等も終わって落ち着いた。

○震災前から忙しい状態にさらに震災特需が重なり断る場面が多かった。現在も忙しい。

○大船渡の仕事は概ね終わった様子だが、三陸がまだ手付かず。補助金も残っている。

○会社全体や職場環境が震災後から現在まで色々と激変したケースも見受けられる。

○震災、震災後、現在とその都度大きな業界的課題に直面している。継続が難しい。

2) RCの組織、活動についての側面について

- 震災によりクラブに逆に活気が出た側面も感じる。特に西クラブは顕著。
- 震災後から現在まで、クラブに若い人が増えた。
- 震災でロータリー組織の大きな繋がりを強く感じた。
- 震災での義援金についての考え方が様々あり、課題を感じた。

3) 市民生活、街づくり、地域的な側面について

- 震災後から現在にいたるまでの街づくりには不満が残る。今後は個々の努力次第。
- 復興は早いと思うが、スピード感があるのは他所と比較しての話で町内だけ。
- 鉄道がない、道路がない、取り残され感がある。RCの力で何とかならないのか。
- 地域を活性化するためには、全く元の街並みに完全復元する必要がある。
- 行政に期待や頼るだけではなく、個人個人の意識の持ち方とがんばり次第。

★ 第3班



日時：5月21日（火）18：30～ 会場：あらか

出席者：（班長）木下彰則、石川恵美子、上野哲、菊地弘郎、浜田浩誠、志田宏美、
佐藤良、（発表）三田地大悟 計8名

- ・人口がこれから減っていく中で、市内の建物は立派になったが、今後どのような聞きたい。
- ・家は地震で壊れた箇所もあったが現在も直していない。
- ・子供が猪川小に通っていたが、猪川、立根、盛の地域に住む子供たちは、震災の状況が分からなかった。
- ・子供が猪川で震災状況が分からなかったので、3日後に被災した会社まで見に行った。
- ・猪川、立根、盛と大船渡の子供達では、震災に対する考え方が違うと思う。
- ・震災で会社が流され再建したが、他の会社と違い、売り上げが増えることもなかった。
- ・震災当時は直接津波被害が無かったが、余震で建物被害が怖くて車で寝泊まりしていた。
- ・震災で建物に被害を受けた人が家を再建する時はガス、被害を受けない人が家を建てる時はオール電化にする。
- ・被災し全く何もない状況から、今のこの生活が戻ったが、当時は悲壮感でいっぱいだった。
- ・キャッセンに関しては、打合せの段階で要望をだしても、URの思い通りに出来上がった感じがする。
- ・キャッセンの家賃を考えるといたたまれない。
- ・キャッセンの運営に疑問を感じる。
- ・キャッセンは地元の業者を使うべき。（ガス供給が釜石）
- ・キャッセンでイベントを行っても入居店舗への相談がない。（やりますと決定後の報告）
- ・イベントをやっても、来た方が、婦人服店に入るわけでもなく、花屋に来るでもなく、本屋に入るわけでもなく、駐車場だけ専用されるのはどうかと思う。
- ・震災後、まるっきりお客様が変わった。震災前より思いやりが増えた。
- ・自宅に井戸があった為、168世帯に井戸水を供給した。
- ・自分の車に、おむつや浮き輪、ローブ等常に積んでいる。
- ・物資が届いたときに苦勞した。

- ・物資に関しては、被災したから何を送ればいいのか分かったが、当時は何を送っていいのか分からなかった。
- ・行政の温度差がある。宮古、釜石は比較的早く復興した。大船渡も復興したように感じるが、ホームマックから下船渡方面は全くとっていいほど手つかずの状況が見える。

★ 第4班



日 時：5月22日（水）18：30～ 会 場：ときしらず
 出席者：（班長）藤原太伸 池田義弘 金比呂正 田辺茂昭 千田喜一郎
 古内一二 山口徹
 （発表）菅野嘉洋

定刻通りミーティングが開催され、広いテーマで何からとつかかればいいのか
 困惑した部分はありましたが、ロータリークラブに関連することをはじめ、個人
 的なこと大船渡全体に関する事など、参加各人から多くの活発な意見が発表

されました。

- ・震災後の数多くの支援をいただいたことは、大変ありがたく、勇気づけられた。ロータリークラブの素晴らしさを感じ感謝してもしきれないほど。
- ・その時いただいた数多くの支援に対して、少しでもお返しができるか・何らかの形でお返しができるか、日本各地で災害が発生するたびに、何かできないかという思いがある。
- ・基金みたいなものを作って、どこかで災害等が発生した場合少しでも支援できるようにしてはどうだろうか。そういったものがあれば、スピード感を伴った支援が可能であるだろうし、RCの交流にも貢献できるのではないだろうか。
- ・震災後には業界の団体をはじめ数多くの支援をいただき、本当にありがたかった。その反面、なぜ神様はこんな試練を与えるのかという思いもあった。こういう時にこそ人間としての生き方を問われるのだろう、このような試練を乗り越えることが、今後の社会を形成するうえでも大事なことはないか、ということを考えさせられた。
- ・震災前・震災後と比較してロータリークラブの会員も顔ぶれが大分変わった。半数程度は震災後に入会した会員だと思うが、震災前からの会員の方達については、できればずっと残っていてほしい。同じロータリークラブの仲間、時にはご意見番として。奉仕と親睦がロータリークラブの大きな柱だと思うし、今後も皆で楽しく活動していければいいなと思う。
- ・西ロータリーが震災後関与したもので思いで深いものとしては、盛の東町商店会に外灯を設置していただいたことと、赤崎小学校に新しい校旗を寄贈したことが挙げられる。暮らしや仕事に関係する部分であるが、非常にありがたかった。
- ・鎮魂愛の鐘について、防災センター前への移転の話が進んでいるそうだが、鐘の音について苦情とならないか心配。
- ・大船渡市としての観光の整備にもっと力を入れて欲しい。
- ・自分がロータリークラブへ入会する発端となったのが、当時会員だった金野孝さんからの話で、末崎町の仮設住宅へ洗濯機を2台寄贈するので用意して欲しいということからだった。震災がきっかけといえどきっかけになるので、縁を感じる。

また、直接テーマに関する事ではないですが、参加していただいた金会員からは話を人に伝えること（話術）の大切さについてお話をいただきました。伝えるにあたってはただ事柄だけを述べるのではなく、興味を持って聞いてもらえるよう脚色とはいわないまでも起承転結を意識した話をする事、特に起承転結の結の部分がやはり大事であること、など具体例（「占い」の話や「中秋の名月」と「うさ

ぎ」の話など) を交えわかりやすく話をしていただき、大変勉強になりました。

震災に関しましては、良くも悪くも多くの人が貴重な経験をされたと思いますが、その経験をまた下の世代や他の地域の方々に伝えるということも大事なことだと思います。

設定した時間では話が尽きないくらい、様々な意見があり大変盛り上がりました(半分以上は発表できないような話でしたが…)。以上で4班のミーティング報告を終了いたします。
ご清聴ありがとうございました。